

令和7年11月1日号

# まちなみ通信 No.78

～ 10月の出来事など ～



廿日市市宮島町のスタンプ

## － みやじまの町家に親しむ会の取り組み － 記憶の中のふるさと宮島

～職人のまち、くらしのあるまち～

戦後(昭和20年)から昭和40年ごろにかけて宮島町内にあった家や店舗などについて、宮島在住の人たちから聞き取った情報を見える化するため、生業マップを作りました。

宮島の産業として、「宮島細工」にスポットを当て、ロクロ師、彫刻師(彫り師)、杓子づくり、木匙(きさじ)師、角盆師(手堀盆)、寄せ木指物師(はし箱)などを生業とされていたお宅を色塗りしています。

マップからは当時、宮島細工の従事者が多くいたことが読みとれ、宮島の一時代を築いていたように思われます。

今も残る伝統的な町家からは、当時の暮らしがしのべられます。

### － 宮島細工について － (「宮島の伝統工芸」より)

#### ○ロクロ細工(ロクロ師)

- ・嘉永年間(1848～1853)江戸時代末期ごろ宮島に伝わっています。
- ・その約20年後ごろ(幕末～明治初期)から、本格的な生産が始まり、手回し式から足踏み式へと技術改良が進み、板盆、菓子器、茶入れ、重弁当などが作られるようになります。

#### ○杓子づくり

- ・寛政年間(1789～1800)江戸時代後期ごろ宮島在住の僧、誓真(せいしん)さんが島の特産品として杓子を発案し、その製作方法を教えたと伝えられています。
- ・明治時代半ばごろから、土産物ばかりでなく、日用品としての需要増加に伴い、関西方面への販路拡大が図られます。次第に、宮島杓子は全国にその名を知られるようになります。

#### ○彫刻師(彫り師)

- ・江戸時代の終わりごろ、甲州(山梨県)から宮島に来た「波木井昇齋」(はぎいしょうさい)という人によって木彫りの彫刻技術が伝えられたと言われています。

**令和7年12月6日 土曜日 10時～20時**

「宮島まちづくり交流センターまつり」で、生業マップの全貌が展示されますので、ぜひ、ご覧ください。



マップづくりの様子



西町の生業マップ

## ～ 伝統的建造物の紹介 No. 12 《塔之岡茶屋》～

塔之岡に茶屋として使われている平屋です。

屋根は寄棟のカラーステンレス板一文字葺きで、切石基礎の建物です。

大正時代の末ごろに建築されたと言われており、当時、近くの建物を曳き家したのと同時に建てられたとのこと。

屋根の葺き方は、最初は柿（こけら）葺きでしたが、その後トタン葺きになり、さらに現在のような形に葺き替えられたようです。表側の差し屋根は昭和時代の末に作られたものです。茶屋の前面には、伝建地区内の歴史的風致を構成する環境物件である「龍髯（りゅうぜん）の松」があります。



外観の様子



茶屋前にある龍髯の松

### 伝統的建造物（旧若狭家）を見学しませんか？

宮島町家の特徴である内部空間（神棚や吹き抜け）を見学できる公開施設として整備するため、内装解体による痕跡調査の様子をご覧いただけます。

見学を希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

### — 申し出受付中 — 【補助制度】 シロアリ駆除しませんか？

伝統的建造物の保存同意をいただいている所有者の方を対象に、シロアリ駆除のための補助制度を準備しています。

（補助率 9/10 以内 上限 100 万円） ※予算には限りがあります。

シロアリ被害にお困りの方や心配の方は、一度、宮島企画調整課までご相談ください。

### 【建物相談会のご案内】

宮島企画調整課の職員（建築職）による、建物相談会を実施します。

○日時：令和7年11月13日（木）10時00分～16時00分〈予約は不要です〉

○場所：etto 宮島交流館 1階会議室

○相談事例：建物のお困りごと（雨もり、シロアリ、外壁の劣化、耐震化など）や補助制度のことなど

※ 相談等に関して知り得た個人情報を利用目的以外の目的に利用し、又は第三者に提供することはありません。